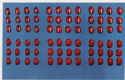


草 本



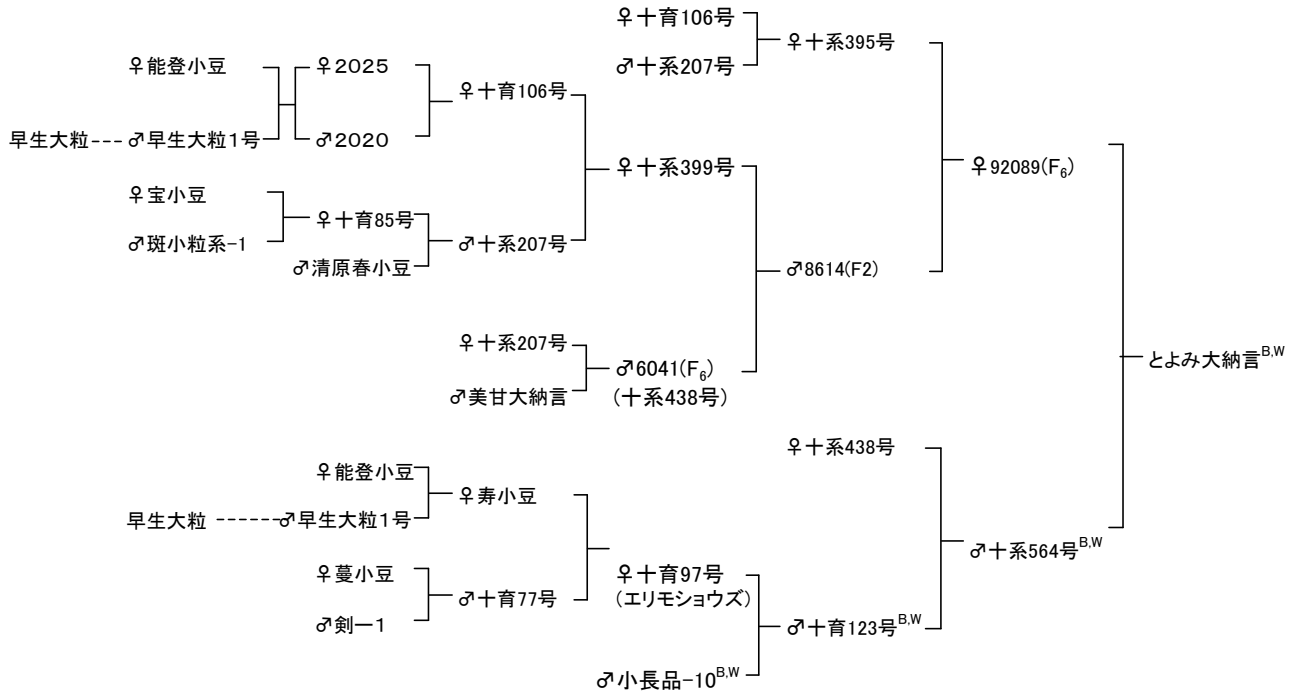
【圖】材料の正体、中：正と偽の比較、右：根と土の分離

平 實



【圖】材料の正体、中：正と偽の比較、右：根と土の分離

本草綱目卷之九 草部 平實 一、平實の正体、中：正と偽の比較、右：根と土の分離



- 注1. B:アズキ落葉病抵抗性、W:あずき萎凋病抵抗性を有することを示す
 2. 早生大粒1号:中国東北部在来「早生大粒」から純系選抜。育成年次:1930年
 清原春小豆:1966年韓国水原作物試験場から導入、美甘大納言:1977年岡山県農試から導入、
 小長品-10:1976年長野県中信農試から導入

表1. 生育特性

試験地	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏程度	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	子実収量 (kg/a)	同左比率 (%)	規格内子実割合 (%)	百粒重 (g)	品質
育成地	とよみ大納言	7.30	9.22	3.5	84	11.9	36.8	101	—	25.9	中上
	アカネダイナゴン	7.28	9.21	3.2	93	15.2	36.3	100	—	18.2	中上
	ほくと大納言	7.30	9.21	3.6	103	13.4	32.9	91	—	23.5	中上
普及見込 地帯平均	とよみ大納言	7.28	9.12	1.9	69	10.8	29.6	102	97.9	21.1	中上
	アカネダイナゴン	7.28	9.13	2.1	77	13.7	29.1	100	74.4	15.6	中中
	ほくと大納言	7.28	(9.12)	2.3	81	11.9	27.1	(92)	94.3	19.8	中中

品種名	病害抵抗性				雨害による濃赤粒発生程度		
	落葉病	茎疫病	萎凋病	ウイルス病	雨害無～ 微発生年	雨害多発年	年次間差
とよみ大納言	強	弱	強	弱	10.58	10.14	-0.44
アカネダイナゴン	弱	弱	弱	弱	—	—	—
ほくと大納言	弱	弱	弱	弱	9.57	7.82	-1.75

注1. 育成地と普及見込み地帯：1998～2000平均。普及見込み地帯は道北、道央、道南及び十勝での試験のうち、早生種と帯を除くのとよみ大納言36カ所の平均。規格内子実割合は大納言規格である5.5mm篩以上の子実割合である。また、()内は成熟期が未熟で収穫した1カ所を除く平均である

2. アズキ落葉病は道立十勝農試(1998, 1999)、アズキ茎疫病は道立上川農試(1998, 1999)、アズキ萎凋病は道立中央農試(1998, 2000)の調査結果である。ウイルス病は岩手県農試(1999, 2000)の調査結果である。

3. 倒伏程度は、無:0、微:0.5、少:1、中:2、多:3、甚:4

4. 濃赤粒発生程度：現地試験等生産物の種皮色。a*の比較。年次間差の低下が大きいほど発生が多い事を示す

表2. 品質特性

品種名	製あん特性				子実の特性			
	あん色				粒形	大小	種皮色	品質
	L*	a*	b*	C*				
とよみ大納言	39.96	6.36	7.41	9.77	短円筒	極大	淡赤	上
アカネダイナゴン	39.34	5.39	6.14	8.21	烏帽子形	大の小	濃赤	上
ほくと大納言	42.04	5.78	7.00	9.10	円筒	極大	淡赤	上

注1. 製あん特性は道立中央農試試験結果(1998, 1999年) 道立十勝農試産の平均値。東京電色社製 TC-1800Mk-IIによる。

2. 子実の特性は育成地の観察結果である